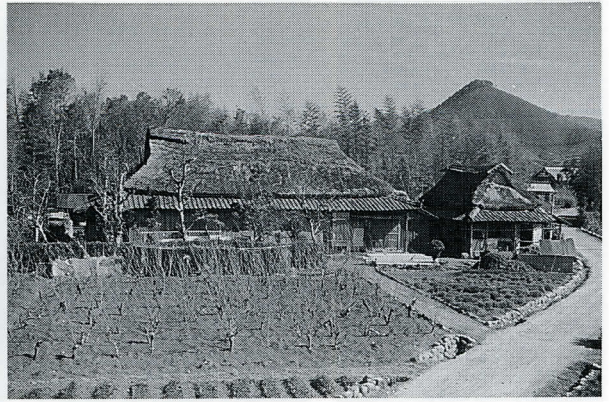




少年時代学んだ四書と机



生 家

④ 津田左右吉

津田左右吉は、史料にもとづく歴史の研究を日本ではじめて確立し、日本だけでなく中国や朝鮮半島の地理や歴史の研究に大きな功績を残した偉大な学者です。

左右吉は明治六年（一八七三）一〇月三日、岐阜県加茂郡柘井村（現美濃加茂市下米田町）に生まれました。父藤馬は、尾張藩附家老竹腰家に仕えた家臣でしたが、明治維新により美濃加茂の地へ移住しました。左右吉は四歳のころから父に四書（大学・中庸・論語・孟子）の素読をうけ、幼いころから書物に親しみました。明治一二年一月、文明学校（現下米田小学校の前身）に入學すると、当時の校長格であった森達先生に才能を認められ学問に励みました。

明治一九年六月、文明小学校全課程を終了し、名古屋の私塾に通い、英語、漢学などを学びました。明治二三年に上京し、東京専門学校（現在の早稲田大学）邦語政治科に編入学をしました。東京専門学校を卒業後、教育界で有名だった沢柳政太郎氏のもとに書生として出入りし独学で学びました。そこで、津田の非凡さを知った沢柳氏は、歴史学者白鳥庫吉氏を紹介しました。白鳥氏も津田の才能を見抜

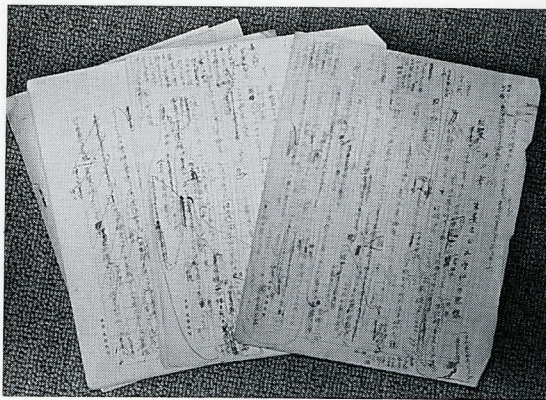


津田左右吉（名誉市民第1号）

き、西洋史の教科書を編集させました。これをきっかけに、津田の歩む道がはつきりと導かれていくこととなりますが、その後数年間は中学教師として苦悩の青年期を送りました。

明治四一年、津田にとって重要な転機が訪れます。南満州鉄道株式会社の中に、白鳥氏が指導する満鮮歴史地理調査室が開設され、津田はその研究員として参加することになったのです。

津田は日本の歴史の中で二つの大きな転換期に関心を持ちました。貴族社会から武士の社会へ移行し



自筆原稿



主な著書



東京都武蔵野市境の自宅で妻と

た鎌倉時代と、明治維新期の時代です。それらの研究を重ねるに従い、時代を徐々にさかのぼり、結果的に『古事記』と『日本書紀』にたどりつきました。この研究の成果を『神代史の新しい研究』にまとめ、これをかわきりにつぎつぎと著作を発表しました。

大正九年、早稲田大学文学部教授となり、昭和九年には、津田を指導者に東洋思想研究室が開設されました。

昭和一四年、南原繁みなはらしげる東京大学教授に依頼されて、

東京大学で東洋政治学の臨時講師になりました。当時、日本はまさに軍国主義への道をつつ走っていたときで、自由な学問の取り締まりが強化されていた。そこでこの講義がきっかけとなって津田の思想を告発する記事が雑誌に掲載され、翌年には『古事記及び日本書紀の研究』など津田の著作四冊が皇室を侮辱するものとして発禁処分となりました。そして津田と著書の出版元であった岩波書店の岩波茂雄は裁判を受けることになったのです。津田は合理的批判精神を貫き学問の自由を守るために裁判に挑みました。しかし長い期間行われた裁判の結果は一部有罪判決となりました。この判決を不服とした津田らは控訴しました。その後、昭和一九年法律上時効となり免訴という結果になりました。

昭和二二年、学士院会員に推挙され、昭和二四年、文化勲章を受章しました。昭和三五年には、美濃加茂市名誉市民の第一号として推挙され、当地に訪れました。その折りに両親の墓参と下米田小学校で講話をしました。昭和三六年（一九六一）一二月四日、津田左右吉は学問研究一筋の生涯を終えました。八八歳でした。埼玉県新座市の平林寺にお墓があります。